

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>4.0</b>
<b>1 音環境</b>				-	0.15	<b>2.9</b>	1.00		<b>2.9</b>
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音		-		-	-	<b>2.9</b>	0.50		
1 開口部遮音性能		-		-	-	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		住居部分:Dr-50		-	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				-	0.35	<b>5.0</b>	1.00		<b>5.0</b>
2.1 室温制御		-		-	-	<b>5.0</b>	1.00		
1 室温		-		-	-	-	-		
2 外皮性能		日本住宅性の表示基準「5-1断熱等性能等級4を超える」		-	-	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-		
2.3 空調方式		-		-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				-	0.25	<b>3.0</b>	1.00		<b>3.0</b>
3.1 昼光利用		-		-	-	<b>3.0</b>	0.50		
1 昼光率		-		-	-	3.0	0.50		
2 方位別開口		-		-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備		-		-	-	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		-		-	-	<b>3.0</b>	0.50		
1 昼光制御		-		-	-	<b>3.0</b>	1.00		
3.3 照度		-		-	-	-	-		
3.4 照明制御		-		-	-	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>5.0</b>	0.25	<b>4.3</b>	1.00		<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		-		<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気		-		-	-	<b>3.3</b>	0.38		
1 換気量		-		-	-	3.0	0.33		
2 自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓の確保		-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-		-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		-		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.7</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00		<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		-		<b>4.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		-		<b>4.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40		
1 広さ感・景観		-		-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-		
3 内装計画		・内装の段階でコンセプトを反映させる取り組み ・建物に求められている機能が明確化 ・インテリアパースによる内装計画の事前検討		4.0	1.00	4.0	0.50		
1.3 維持管理		-		<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		<b>3.3</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準 劣化の軽減に関する事等 等級3相当		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニール床シート、畳(20年)、壁:ビニルクロス貼(20年)、天井:ビニルクロス(30年)		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水はポリエチレン管(B)、排水(雑・汚水)、通気管は塩ビライニング鋼管(C)		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		-		<b>3.2</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		ケーブルTVの引き込みによる災害情報入手および通信手段の多様化、精密機械の地下空間の設置を避けている		4.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり	-		-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		-	-	<b>3.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取り組みが行われている 外構緑化指数:20%以上		<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	周辺のまちなみや景観に対して充実した取り組みが行われている		<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性・アメニティへの配慮に関して充実した取り組みが行われている		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える水準の断熱性能を満たす		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	-		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	効率のよい設備機器を導入		<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	住戸プランで想定される生活スタイルに適した説明を行う計画		5.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水型水栓と節水型便器の採用		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:グリーン購入法、床:エクステリア:エコマーク商品を採用		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出された木材を50%以上使用		5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備が錯綜せずに、それぞれを取り外すことができる		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材等を採用		4.0	1.00	-	-	
3 冷媒	-		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率を抑制している		<b>4.5</b>	0.33	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
2.1 大気汚染防止	-		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き用駐車車両の駐車施設を確保している		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.7</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制	風環境解析による評価で立地の階級より一部が上の階級にある		<b>4.0</b>	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックシートの過半を満足、広告物照明はない		5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	3.0	3.0	○	○	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	10.0	-	2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	-	-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	-	2.0	2.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0	-	1.0	1.0	1.0	3.0	2.0	-	-	3.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 主な指標

## Q1 室内環境

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率( $\eta$ )	-
U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	0.4
屋光率	1.4%	$\eta$ AC	1.6
		$\eta$ AH	-

## 3.1.1 屋光率

## 4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 15.8%

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m<sup>2</sup>

## 1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.42 m

## 1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

## 2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 75 年

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

## 3.1.1 階高のゆとり

階高 2.86 m

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 41.0%

## 3.2 荷重のゆとり

床荷重 1800 N/m<sup>2</sup>

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 36% 建物緑化指数 0%

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 62% 水平投影面積率 21% 地表面対策面積率 26% 舗装面積率 0%

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> - 断熱性能等級 等級4を超える 相当

## 2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m<sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

## 3 設備システムの効率化

BPI/BPI<sub>m</sub> 非住宅 - 住宅 0.78 太陽光 45.5kW 太陽熱等 - 蓄電池 -

## LR2 資源・マテリアル

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

## 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 ビニル床タイル エコマーク商品 屋外用品エクステリア指定の特定期目等 -

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 100.0%

## 3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

## 3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

## LR3 敷地外環境

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 61% 隣棟間隔指標Rw 1.89

地表面対策面積率 38.8% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S<sub>b</sub> 398m<sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 108.51 m 基準高さH<sub>b</sub> 6.03 m緑地 451m<sup>2</sup> 水面 m<sup>2</sup> 保水性対策面 m<sup>2</sup> 高反射対策面 m<sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m<sup>2</sup>